

『教育音楽 [中学・高校版] 2010年2月号』p.9～p.13

実践授業1 手づくりの尺八で臨む和楽器の授業

埼玉県さいたま市立土呂中学校(1年3組&高山裕子先生)の実践より(抜粋)

手づくりの尺八に興味津々!

尺八はリコーダーとは違い簡単には鳴らない。でもふいに「ヒョッ」と鳴ったりするから生徒たちはもう夢中になって練習をし始める。「誰も経験したことのない尺八は、生徒全員が同じスタートラインに立てるから」と高山先生が言うように、和楽器は生徒たちの意欲を高めやすい。何も言わなくても隣同士で教え合ったり、聴き合ったりする学びが生まれている。

生徒一人ひとりが手にしているのは、プラスチックのパイプでできたやや細めの尺八。「樹脂竹」とか「プラ竹」と呼ばれているもので、ホームセンターで販売している竹垣用のプラスチック素材でできている。高山先生が市内の研究会で習ってきたつくり方をもとに、高山先生のお父さんが一本ずつ手づくりしてくれたのだそうだ。それでも大量につくれるようなものではない。毎年少しずつつくり足し、最近になって約40本が揃ったという。

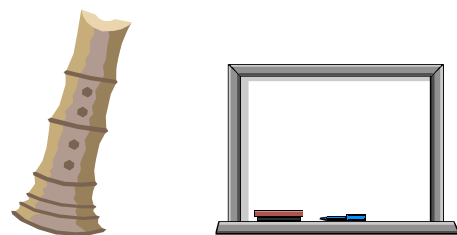
付せんを活用して尺八の特徴を考える

楽器そのものへの興味が熱いうちに、尺八独特の音色や音階に目を向けさせることも授業のポイントだった。

「尺八の音色とアルトリコーダーの音色の違いは何だろう?」と高山先生は生徒たちに呼びかけワークシートにメモをさせる。そして名刺大の付せん紙一枚に一つずつ尺八の特徴を書き出させる。それらを教室のホワイトボードに次々と貼っていくのだ。

「口の形が違う」「穴の数が違う」「音がかすれる」など、生徒たちが貼った多くの付せん、つまり情報は、尺八のさまざまな特徴を捉えたものだから雑然としたままだ。それを高山先生が「構造」「音階」「奏法」「音そのもの」などに分類していくと、クラス全員の気づきが目に見える形で整理されてくる。この手法は「ブレンストーミング」「KJ法」と呼ばれ、新しいアイデアを生み出すときの「発想法」としてビジネスの現場ではよく知られている。

「これなら発表で意見を主張できない生徒も、より積極的に取り組みます。子供たちは尺八の音色について、実際はいろいろ気づいているのですが、語彙や知識が足りないために、的確に表現できないだけなのです。そこをどれだけ<汲めるか>が大事だと思っています。ここでの私の役割は、生徒の言いたいことを<音楽の言葉>で表現し直していくことだと思いました。」と、高山先生は見事にこのワークを「言語活動」に結びつけていた。



実践授業2 平成20年1月27日(水) 江戸川区一斉研究会

研究授業 第二葛西小

題材名「箏と尺八のひびきを味わおう」 6年生 授業者 新関レイナ教諭

講師およびゲストティーチャー 東京学芸大学教授 学芸大学附属大泉小学校長 筒石賢昭先生

<授業の概要>

ねらい 尺八の音色の特徴を感じ取り、かたちや奏法の特徴に気付く。

学習の流れ

- ・ 「月と竹」を聴き、尺八の音色の特徴を感じ取る。 『月と竹』… 杵屋正邦作曲の尺八現代曲。尺八の音色や奏法の特徴がわかりやすい。
- ・ 尺八のかたちの特徴に気付く。 「リコーダーと比べて、材質、長さ、太さ、指穴の数、歌口などはどうなっているかな。」
- ・ 講師による演奏を、奏法に気を付けて視聴する。 「首を振っている。」 「歌口のエッジに息を当てている。」
- ・ 実際に尺八を吹く体験をする。 「首ふり3年コロ8年。」 「がんばって吹かないこと。」 (講師の先生に教えていただく。)
- ・ 講師による「鶴の巣籠」の演奏を、音色や奏法の特徴、奏法による音の変化に気を付けて視聴する。 『鶴の巣籠』… 尺八本曲。鶴の子育てから巣立ちまでの様子を尺八独特の奏法で描写し、その情愛の深さを表現している。尺八独特の音色や奏法を味わえる。
- ・ 尺八の音色やかたち、奏法についてワークシートにまとめる。 本時の学習を書くことによって振り返り、確認するようにする。



<教員向けのワークショップ>

- ・ 尺八の音階「ロ」「ツ」「レ」「チ」「ハ」(5音階)。
- ・ 「たこたこあがれ」「なべなべそこぬけ」「ほたるこい」「ひらいたひらいた」の演奏。(例「なべなべそこぬけ」→「レツレツレレレレ レレレレレチチレレレツレ」)
- ・ わらべ歌を通して文化や言葉について学ぶことができる。
- ・ 韓国の小学校では、民族楽器「タンソ」(竹製の縦笛)が必修である。

感想

「見る」「聴く」「演奏する」「言葉で表す」などの活動の時間が多く、子供たちが生き生きと取り組んでいたのが印象的でした。尺八の演奏を聴いていると、心が研ぎ澄まされるような感覚になります。今回の研究会で学んだことを生かし、子供たちが日本音楽の魅力に出会って興味・関心を深めることのできる授業づくりを進めていきたいです。

